

お伊勢さまと氏神さま・鎮守さまのお神札をおまつりしましょう

◆お伊勢さまのお神札

「お伊勢さん」「大神宮さん」と親しく呼ばれる伊勢の神宮は、正式には「神宮」といいます。

神宮には、皇室の御祖先の神と仰ぎ、私たち国民の大御祖神として崇敬を集める天照大御神をおまつりする皇大神宮(内宮)、衣食住を始め産業の守り神である豊受大御神をおまつりする豊受大神宮(外宮)を中心に、一二五の宮社があります。



宇治橋

神宮のお神札は各種ありますが、中でも、毎年氏神さまから全国のご家庭にお配りしている神宮大麻は、江戸時代まで御師が配布していた「御祓大麻」に替わり、明治天皇の思召により、神宮から正式に頒布することになった由緒正しいお神札です。

神宮大麻をまつることは、天照大御神の広大無辺のご神徳をいただき、お神札に祈願した皇室の繁栄・五穀豊穰・国家安寧を願う「日本の心」を継承することでもあります。



神宮大麻暦頒布始祭

新年を迎えるにあたり、地域守護の氏神さま・鎮守さまのお神札と一緒ににおまつりして、ご家庭の一年の無事と幸せをお祈りしましょう。

◆お神札のまつり方

お神札は通常、神棚に納めておまつりしますが、神棚のない場合は書棚の上など、明るく清らかで、目線より上におまつりします。お神札が南か東を向くのが一般的ですが、間取りによっては、ふさわしい場所であれば向きはかまいません。

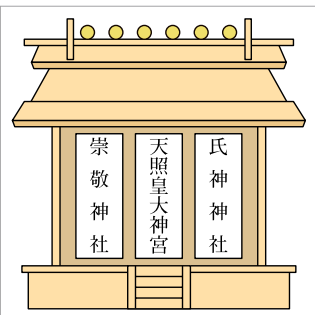
お神札を納める方法は、御扉が一つの神棚は手前が神宮大麻、その奥に氏神さま、次に崇敬されている神社の順に重ねます。

御扉が三つの神棚は、中央に神宮大麻、向かって右に氏神さま、左に崇敬神社のお神札をおまつりします。初めてのの方は、日々の暮らしに感謝の気持ちを込めて、お神札に手を合わせることははじめましょう。作法は次の通りです。

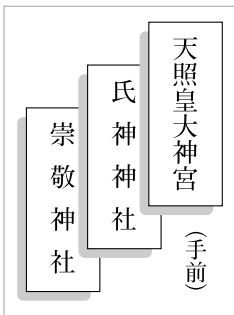
- 二拝（深くお辞儀を二回）
- 二拍手（手を二回たたく）
- 一拝（深くお辞儀を一回）

一年間お守りいただいたお神札は感謝を込めて、氏神さま・鎮守さまに納めましょう。

横に並べてまつる場合



重ねてまつる場合



お供えの一例



◆皇大神宮のご鎮座の歴史

皇室のご先祖が地上に降臨されて、初代神武天皇から第十代崇神天皇の時まで、天照大御神は天皇が皇居の中でおまつりされてきました。崇神天皇は、大御神をより良い場所におまつりすることを決意され、大和国笠縫に神籬を立てて大御神をおまつりしました。続く第十一代垂仁天皇は、皇女の倭姫命に命じて、永遠の鎮座地を求められ、大和から伊賀、近江、美濃などの国々を巡り伊勢国の五十鈴川の河口に到りました。

『日本書紀』では、そのとき天照大御神は「この神風の伊勢の国は、遠く常世から波が幾重にもよせては帰る国である。都から離れたところではあるが、豊かな国である。この国にいたいと思う」と告げられ、現在の伊勢の地にご鎮座したと伝えられています。

〒五二六・〇〇三三
伊勢市宇治館町一丁目
神宮司庁
☎〇五九六二四一〇〇一
<http://www.isejingu.or.jp/>

〒一五一・〇〇五三
渋谷区代々木一丁目二番地
全国神社総代会
☎〇三三三七九八〇〇一
<http://www.jinjancho.or.jp/>